

講義コード	25468011
担当者	小林伸生教授
研究題目	日本産業の構造と競争力

【研究内容について】

産業の国際競争力、それは国や地域の成長力を規定する最も重要な要因となっています。日本も1980年代までは、産業構造を柔軟に転換し、世界有数の経済大国になるまでに成長を遂げてきました。しかし1990年代以降産業構造の転換は減速し、日本は約20年にわたり再び本格的な成長軌道に回帰することなく今日に至っています。日本産業・経済の競争力の回復は緊急の課題です。現在、国や地域では①スムーズな構造転換を実現するための環境整備、②新たなプレーヤーを産業界に呼び込むための新規開業促進の仕組みづくり、③知的ストックを産業の高度化に向けて有効活用するための仕組みづくり等、様々な政策が立案され、実施されています。皆さんの多くが将来身を投じることになる、わが国・地域の産業・企業活動。その競争力を高めていくための処方箋を探っていくことを、主要な研究テーマにしていきます。

【ゼミの運営について】

ゼミを通じた人材育成の最終的な目標を、実社会に出てから必要とされる①論理的な思考力、②情報の確かな分析能力、および情報を収集するために必要な行動力、③主張や企画を具体的な形にして人に説明・説得するプレゼンテーション能力の獲得に置きます。

研究演習入門では、日本産業の問題点・競争力などを考察する上での基本的な考え方の枠組みを提供する文献の輪読を中心に、発表のためのプレゼンテーション資料作成能力獲得のためのパソコン実習や、他ゼミとのディベート等を挟みながら進めていきます。3年の研究演習では、大きな統一テーマを設定しての共同研究を中心に学内外他ゼミとの対抗ディベート、研究発表会、ゼミ合宿等、多面的な活動を織り交ぜてゼミを展開しています。

※ゼミHP：<http://homepage2.nifty.com/kobayashi-seminar/index.html>

【選考基準等】

ゼミは参加する学生の主体的・積極的な参加があって価値が高まっていくものです。通常のゼミ時間における積極的な討議への参加は勿論のこと、課外活動（合宿・旅行、学内外対抗ゼミ、フィールド調査、各種レク・コンパ等）も積極的に企画・実行・参加してもらいます。学部内でも屈指の忙しいゼミだと自認しています。ゼミを残りの学生生活の中心に据え、他のメンバーとの協力をいとわず、多忙な中から達成感・充実感を得る覚悟と意欲のある学生を望みます。

なお、志望する学生については（志望順位を問わず）、ゼミ説明会で配布する志望理由書に必要事項を記入し、事務室に提出してください。志望理由書等に基づいて面接を行う予定です。

受け入れ条件		志望理由書の提出、選考面接への出席
担当者のプロフィール	専攻	現代産業論
	現在の研究テーマ	産業構造と競争力の実証分析、知識集約化が産業の高付加価値化に与える影響の実証研究、産業空洞化・サービス経済化と地域経済成長
	所属学会	日本経済学会、日本経済政策学会、日本中小企業学会、日本ベンチャー学会、産業学会、応用地域学会